

進捗状況の概要【1ページ】

■国際基幹教育院を中心とした、KUGSに基づく金沢大学ブランドの教育の実現

○国際基幹教育院の設置と共通教育新カリキュラムの実施

平成 28 年 4 月に国際基幹教育院を設置し、本学が定める「金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)」に基づく 30 科目の GS 科目に共通教育科目を集約した。これにより、全ての学生が必ず身に付けるべき内容を学習することができるカリキュラムを構築した。

○全学一斉クォーター制の導入

平成 28 年度から全学一斉にクォーター制を導入し、日本人学生の海外派遣、及び留学生の受入拡充に向けて環境整備を行った。

○地域「超」体験プログラムを通じた人間力強化

平成 26 年度の試行を経て、KUGS に掲げる 5 つの能力、体力、人間力を養成するプログラムとして、平成 27 年度から共通教育科目「地域『超』体験プログラム」を開講し、平成 26 年度の試行から含めて 300 人近くの学生が参加した。

■金沢大学スーパーグローバル ELP センターの設置と、英語教育の強化

○金沢大学スーパーグローバル ELP センターによる全学英语力強化

平成 27 年 3 月に米国・タフツ大学と連携して、キャンパス内に「金沢大学スーパーグローバル ELP (English Language Programs) センターを設置し、教員、職員、学生に対する英語研修プログラムを実施し、平成 27 年度から 300 人以上の教職員・学生が受講し、大学全体の英語力強化を進めている。

○学生の英語力強化と授業の英語化の全学的推進

平成 28 年度から共通教育の英語科目を GS 言語科目「EAP “English for Academic Purposes”」、「TOEIC 準備」へ改革し、実践的な英語力を強化するとともに、授業科目の英語化について、教員へのインセンティブ制度を導入するなど、全学的に進め、平成 28 年度は 16.3%の科目を英語化した。

■国際教育研究ネットワークと金沢大学海外拠点の充実

○金沢大学海外拠点の整備

平成 27 年度から順次、ベルギー・ゲント大学、米国・タフツ大学、中国・北京、タイ・モンクット王工科大学トンプリ校 (平成 29 年度設置予定)に海外事務所を設置し、学生交流プログラム、ジョイント・シンポジウム、職員の相互派遣プログラム等を実施するなど、重層的な連携協力を進めている。

○日本人学生の海外派遣の強力な推進

平成 27 年度から協定校を中心として、新規海外派遣プログラムの開発を進め、平成 28 年度は海外派遣を一元的にサポートする「スタディアブロードオフィス」を設置し支援体制を整備した結果、学士課程の学生を中心に 502 人 (平成 26 年度比 368 人増)を海外に派遣した。

■学長のリーダーシップによる迅速かつ強力なガバナンス改革

○ガバナンス改革による事業実施体制の構築

平成 27 年 2 月にスーパーグローバル大学企画・推進本部を設置し、専任の事務部門に 3 名の職員を配置。平成 26 年度に策定した アクションプラン「ロケットスタート計画」に基づき、四半期ごとにヒアリングを実施するなど、一元的に事業の進捗状況・評価を行っている。

平成 26 年度から毎年本事業に係る外部評価を行うとともに、平成 27 年度から「金沢大学ステークホルダー協議会」を実施し、外部からの意見等を事業実施に反映させている。

○徹底した人事制度改革による国際化・グローバル化に対応した教職員の確保

平成 27 年 1 月に年俸制、及びリサーチプロフェッサー制度の導入、同年 4 月に 新規教員採用方針の運用開始 (英語による授業能力の必須条件化)、コンカレント・アポイントメント制 (混合給与制)の導入を行い、さらに 平成 28 年 5 月に評価結果を本給に反映する新たな教員評価制度を導入するなど、人事制度を大きく改革し、国際化・グローバル化に対応した教職員の確保を図っている。

○学域学類制の深化と共同大学院の設置

平成 20 年度に導入した学域学類制の点検・見直しを行い、平成 30 年度に 人間社会学域、及び理工学域を改組し、また、北陸先端科学技術大学院大学と共同大学院を設置し、グローバル人材育成に向けて、教育組織を見直すこととした。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

○全学を挙げた事業推進

平成 27 年 2 月に スーパーグローバル大学推進委員会（推進委員会） 及び スーパーグローバル大学企画・推進本部（企画・推進本部） を設置し、企画・推進本部には、3 名の専任職員を配置。学長を委員長とし、本部長、理事、副学長、学域長で構成する推進委員会を事業推進の司令塔とし、学長補佐（大学改革担当）を本部長とする企画・推進本部において、事業の運営・管理を行うことにより、学長のリーダーシップによる迅速かつ強力なガバナンスが働く全学を挙げた事業推進体制を整備した。

具体的には、平成 26 年度に策定したアクションプラン「ロケットスタート計画」84 計画を理事をリーダーとする 5 つのグループで分担し、グループの統括・調整を企画・推進本部において実施し、各グループに対して、四半期ごとにヒアリングを実施するなど、一元的に事業の進捗状況・評価を行っている。

○国際基幹教育院の設置と共通教育新カリキュラムの実施

平成 28 年 4 月に国際基幹教育院を設置し、本学が定める「金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）」に基づく 30 科目の GS 科目に共通教育科目を集約した。これにより、全ての学生が必ず身に付けるべき内容を内容を学習することができるカリキュラムを構築した。

○金沢大学スーパーグローバル ELP センターによる全学英語力強化

平成 27 年 3 月に米国・タフツ大学と連携して、キャンパス内に「金沢大学スーパーグローバル ELP（English Language Programs）センターを設置し、教員、職員、学生に対する英語研修プログラムを実施し、平成 27 年度から 300 人以上の教職員・学生が受講し、大学全体の英語力強化を進めている。

○学生による学修支援機能の強化

大学教育再生加速プログラムと連携して、正課外の学修支援も担当する ALA（アクティブ・ラーニング・アドバイザー） 制度を拡充するとともに、TA（ティーチング・アシスタント）についても、アクティブ・ラーニング及び英語化を推進する授業に重点的に配置を行なった。

また、従来の TA よりも高度な活動を行う「高度 TA」制度を開始し（平成 27 年度 14 人、平成 28 年度 23 人）、全学の FD を推進するスキルアップセンターにおいて全 8 回の研修を受講した上で、講義補助を行っている。

○「国際交流スタジオ」設置と「留学生ラーニング・コンシェルジュ」による附属図書館のグローバル化

平成 28 年 3 月に中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館の 3 つの基幹図書館に国際交流スタジオを整備し、中央図書館、自然科学系図書館には 留学生及び語学に堪能な日本人学生を「留学生ラーニング・コンシェルジュ」として配置し、留学生に対する学修支援とともに日本人学生の外国語会話演習等に対応している。

○留学生カウンセラーの常駐等による留学生支援の充実

平成 27 年 10 月より、英語で対応できるメンタルヘルスカウンセラー 1 名を配置し、留学生の精神的サポート体制を強化した。また、国際機構及び各部局に相談教員を配置し、保健管理センターと連携して、全学的な相談体制を構築している。

○多様な人材の受入を見据えた入試改革の実施

平成 30 年度入試から受験者の個性や特性に応じた 入試制度「文系後期一括、理系後期一括」入試（定員 144 人）を実施することとした。当初の予定を拡大し、人間社会学域、理工学域に加え、医薬保健学域（薬学類を除く）も対象に含めた広域の入試を実施することとした。

平成 30 年度に改組を予定している理工学域においては、改組する学類のうち 3 学類の前期日程入試（定員 252 人）について、一括入試を導入することとした。

また、KUGS に適う人材をじっくりと時間をかけて見極める「KUGS 特別入試」、特異な才能を備えた多様な学生を受け入れる仕組みを構築する「超然特別入試」についても、導入に向け、高大接続プログラムの開発を進めている。

さらに、国際学類のみ活用していた 英語外部試験を、平成 30 年度入試から全学的に活用することとした。

○学生スタッフ組織「KU-SGU Student Staff」の発足

平成 28 年度から本事業推進に協力する 学生スタッフ組織「KU-SGU Student Staff」が発足し、15 人の学生がスタッフとして登録し、グローバル化に関するセミナー等を 5 回開催するなど、学内の留学気運を高める取組を行っている。平成 29 年 6 月 26～30 日には「グローバルウィーク～君のキャリアアップだけを考えた国際交流フェスタ～」を開催する予定である。